

桂川町社会福祉協議会だより

2023

No.182

令和5年11月21日(年4回発行)

(編集・発行)社会福祉法人 桂川町社会福祉協議会広報部 桂川町大字土居463番地1 いきいきセンター「桂寿苑」内 ☎65-2271・FAX65-4555

メール fukushi@keisen-shakyo.or.jp ホームページ <http://www.keisen-shakyo.or.jp>

支え合う 思いやる



イラスト：新 未佳

印刷・製本：今心株式会社 飯塚市横田669番地69後牟田工業団地 ☎22-2888

福祉のつどい講演会

9月24日(日)に福祉のつどい講演会を行いました。

今年度は、サガハイマツト専務理事の船津定見氏をお招きし、ご講演いただきました。サガハイマツトは愛称で、正式名称は「九州国際重粒子線がん治療センター」です。

重粒子線がん治療は、放射線療法の二つで、炭素イオンをがん病巣に照射する治療法です。重粒子線には、一定の深さでエネルギーがピークになる特徴があり、ピークになる深さを病巣の位置に合わせること、がんだけを集中的に狙い撃ちできるそうです。そのため、がん以外のまわりの正常細胞へのダメージ(副作用)を最小限に抑えられます。

講演では「サガハイマツトでは、すべての治療を通院で完結させることが可能。平均して3週間程度の期間で治療を終える。そのため通常の生活を維持しながら治療が行える。重粒子線治療をした後に、仕事に行く患者さんもある」と言われていました。

がん治療は、手術や重粒子線治療などさまざまありますが、予防や早期発見の大切さについても言及されていました。日々の生活で見直せるところは改善し、定期的に検診を受けるなど早期に発見をするためにも桂川町において行われているがん検診を受けてみてはいかがでしょうか。



講演会当日は、107名の方が来場され、大盛況で終えることができました。医療ど真ん中の話ではありましたが、多くの方が関心をお持ちであることも分かりました。今回の講演では、内容はもちろんです、テーマ選定についても示唆を得られた貴重な機会となりました。

託児ボランティア養成講座

今年度も託児ボランティア養成講座を全3回開催しました。子どもの見守りや一緒に遊んでいただくボランティアを養成する講座です。子育て中の保護者が社会参加またはレスパイト(休息)を取りやすい環境づくりの一つです。

9月27日(水)

●内容:平成と令和の子育て ●指導:wa-wa

昭和と令和の子育てでは、子育てに対する考え方もそうですが、便利な製品も開発され大きな変化を遂げていました。昔は、親が口の中で固いものをやわらかくして食べさせることもあったそうですが、今は親と子どものお箸、スプーン等を

分けて虫歯予防をしています。また昔はなかった固形や缶の液体ミルクが販売されています。コップも変わっていて吸うと出てくるが、逆さまにしてもこぼれないような構造のものがあるなどの意見や情報共有がなされていました。



10月5日(木)

●内容:救命講習 ●指導:日本赤十字社

子どもに起こりやすい事故を知り、その予防方法について学びました。大人では気にならないことも、子どもの目線になるととても危険なことが身近にありました。

また乳幼児の心肺蘇生とAEDの使い方に

ついて実技を通して学びました。AEDは、見かけることはあっても使用する機会は多くありません。

だからこそ、これからもさまざまな講座を受講し、復習してもらいたいと思っています。



10月18日(水)

●内容:託児体験 ●指導:Wa-Wa

子育て中の保護者にリフレッシュしてほしいと願い、毎月実施している託児に参加していただきました。

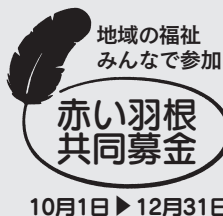
この託児事業は、お子様を3時間預かり、日頃できない買物や美容室などリフレッシュなどに活用されています。託児を利用したお母さん

やお父さんは「息抜きにもなるし、用事も済ませられるので、助かります」と言われていました。

子育て支援「Wa-Wa」は、希望する日時で個人託児も行われています。

※お申込みは桂川町社会福祉協議会までお願いします。





令和5年度 キャッチフレーズ

赤い羽根 心がつながる 支え合い
…赤い羽根共同募金



目標額 **3,012,855円**

第1回共同募金運動は、1947(昭和22)年、全国的に展開され、今年で78回目となります。桂川町で集まった募金額に応じて翌年度に実施される身近な地域福祉活動や、社会福祉施設の整備費として配分額が決まります。このような仕組みとなっていることから、赤い羽根共同募金は、自分の町をよくする募金活動とされています。

令和5年度 桂川町配分額

3,387,800円

今年はこのような
事業に使用しています

歳末たすけあい事業

50,000円

高齢者福祉活動

488,000円

児童・青少年福祉活動

400,000円

障がい児・者福祉活動

235,000円



福祉育成・援助活動事業

2,214,800円

問合せ先: 共同募金会桂川町支会/桂川町社会福祉協議会 Tel.65-2271・Fax.65-4555
共同募金の使いみち情報: www.akaihane.or.jp ●赤い羽根データベース「はねっと」をご覧ください。

リサイクル椅子をご提供いただきました!

手作りの会の皆さんに牛乳パックでできた椅子をご提供いただきました。この椅子、公民館でご覧になられたことがある方も多いと思います。素材は牛乳パックですが、とても頑丈で、安全に使用できます。とはいえ長年使用していると型崩れがおきて座りにくくなってしまいます。

公民館でお使いのリサイクル椅子が使いづらくなってきたら社協にご相談ください!



「介護のお仕事復帰セミナー」が開催されます。

日 時 福岡地区/12月7日(木) 北九州地区/12月13日(水)

11時から16時まで※12時~13時は昼食休憩

会 場 福岡地区/クローバープラザ(春日市原町3-1-7) 北九州地区/ウェルとばた(北九州市戸畑区汐井町1-6)

内 容 介護技術の復習(講義・実技)

対 象 介護福祉士か介護関係研修課程修了者で、介護分野に就業していない方(定員20名)

※就職支援専門員の相談コーナーも有り。

参加費 無料

問合せ 福岡県社会福祉協議会 福祉人材センター ☎092(584)3310

HPアドレス <https://www.fuku-shakyo.jp/jinzai/>



スマート
フォンからは
こちらから





福祉部活動の紹介



\\ 支え合いマップづくり //

9月11日(月)、土居二区福祉部で「支え合いマップづくり」を行いました。地域の方々が、情報を持ち寄り、一人暮らしの方は“青のシール”など世帯状況によってシールの色を決めて、大きく印刷した地図の上に貼っていきます。

マップづくりをしているときには、「地震や水害などの自然災害だけでなく、火事もある。そのときに近所の人が情報をもっていると助けられることもある」とお話もありました。また、このマップは、災害などの緊急時だけでなく、平時の安心や安全のためにも活用できます。事前に情報があるだけで、「○○さん困っていることないかな？」など日々の声掛けや散歩コースも変わってくるかもしれません。

マップづくりが終わったときには「頭のなかの情報が地図になると見え方が変わってくる。情報は日々変

わるので、更新が必要」とのお話もありました。

社協では、この取り組みを改めて推進し、地域のことを知る、気に掛ける、助けるなど「支え合いの輪」を広げるためのお手伝いをしてまいります。



\\ 救急安心カード入れづくり //



10月30日(月)、土居一区福祉部で「救急安心カード入れづくり」を行いました。皆さんの冷蔵庫にもカードが入っていませんか？既往歴や緊急連絡先など「もしも」のときに重要になる情報が書かれています。救急安心カードをみた救急隊員の方が適切な処置を行えるよう準備をしておきましょう。

当日は、ご自身についてカードの項目(氏名、生年月日、既往歴など)を記入してもらいました。カード入れは、冷蔵庫のなかに入れていても目立つよう装飾します。手作りの会の方々に教えてもらいながら装飾を行いました。「備えあれば憂いなし」安心のために改めて、救急安心カードを作りませんか？

\\ コミュニケーション麻雀 //

各福祉部でコミュニケーション麻雀が行われています。「賭けない・飲まない・吸わない」の三原則の下、はじめました。最初に数牌と字牌を並べ全て揃っているかを確認し、その後はサイコロと数牌を使ったゲームや麻雀をして楽しみました。

4チームに分かれてゲームを始めると、「この牌はいる？いらない？」それぞれ作戦会議をしながらゲームが進みます。そのなかで、人と話す、牌を渡す、立ち座りを自然に繰り返します。話すことで咀嚼(そしゃく)や嚥下、牌を渡すことで腕力と握力、立ち座りすることで大腿部の運動になります。

コミュニケーション麻雀を終えた頃には、心地よい疲労感。福祉部だけでなく桂寿苑で実施しているサロンでもコミュニケーション麻雀を行っていますので、ご興味ある方は是非お越しください。





令和6年度 学童保育所の入所案内



募 集 桂川学童保育所 220名(予定)
桂川東学童保育所 50名

対 象 町内小学校に在籍する1年生から6年生で、
その保護者が就労、病気介護などにより、
家庭での保育が受けられない児童

保育日 平日、土曜日、学校の振替休日、春・夏・冬休み

時 間 平常保育 放課後～18時30分
一日保育 8時～18時30分

利用料 4,000円/月・1人(2人以降2,500円/月・1人)
※その他おやつ代、保護者会費等負担あり
※利用料減免制度あり

申 込 12月11日(月)～配布
各学童保育所・桂川町社会福祉協議会・
役場住民課・子育て支援課・町内幼稚園・
保育所(園)

締 切 令和6年1月4日(木)～19日(金)
※定員になり次第締切

その他 夏休みのみの利用は定員に達していない場
合のみ募集

※詳細は「広報けいせん令和6年5月号」に掲載予定



街頭募金

10月1日から12月31日の運動期間を周知するために、10月2日(月)11月15日(水)、トライアル桂川店の駐車場で赤い羽根共同募金の啓発及び募金活動を行いました。

10月2日(月)の街頭募金では、各団体の皆さま、地域の方々のご協力により、11,500円集まりました。募金へのご協力と共に、一緒に啓発及び募金活動にご協力いただける方は、社協事務局まで、ご連絡をお願いいたします。



今後の街頭募金予定：12月15日(金)15時～16時30分 トライアル桂川店駐車場

4年ぶりにイベント募金を実施!

イベント募金を4年ぶりに行いました。当日は王塚古墳まつりで賑わっている会場のなかで、手話の会、すみれ句会、たすけあい桂川、民生児童委員の皆さま総勢16名で募金のご協力を呼びかけました。

赤い羽根共同募金のブースでは、200円以上の募金で束になっている紐のうち一本を引けます。引いた紐の先に付

けられている景品が浮いてきて、それを受けとれます。子ども達もたくさん募金してくれて、募金ブースもとでも盛り上がりました。

募金の呼びかけ、募金へのご協力いただいた皆さんのおかげで、当日は35,757円のお金をいただきました。このお金は私たちが住む桂川町の社会福祉の向上のために必要な事業に使用されます。



赤い羽根共同募金とは

「赤い羽根共同募金」へのご協力いつもありがとうございます。

赤い羽根共同募金は、「自分たちの住む地域をより住みやすくする」ための募金です。社会福祉の充実には国や地方公共団体が主体となり進めていますが、法律や条例などの制限があるために、新しい要望や想定外の事態に対処しにくいという側面もあります。予想していないこと

が発生したときに柔軟な対応ができる「赤い羽根共同募金」がその活動の財源として活躍してくれます。社会福祉の向上を目指す行政サービスの補完的な役割を担っています。

また赤い羽根共同募金の協力の呼びかけは、世帯だけでなく、街頭や職場などで行っています。皆さんが住む地域の社会福祉に関心を持って頂くためにさまざまな場所で呼びかけを行っています。赤い羽根共同募金を地域の福祉活動へ参加するきっかけにいただければと思います。



社会福祉法人 嘉穂の里 グループホーム
みんなの家・みんなの家リバーC-village
桂川町大字土師1091-31
TEL: 0948-20-2200
E-mail/info@kahonosato.jp

令和4年12月1日に二人暮らしに近い環境の利用者様をサポートするワンルームタイプのコンテナハウスを4棟設置し、サテライト型グループホーム「C-village（シービレッジ）」を開設。生活の幅を広げ健康的に過ごし、働くことを目指す。



社会福祉法人 嘉穂の里「グループホームみんなの家」では、共同生活を通じて、自立した日常生活や社会参加を目指しております。

『イベントやっています!』

指す方は就労意欲とスキルを向上し、生活の中で出来る事は自分で行い、出来ない事はフォローする。能力に合わせたライフスタイルの中で現在、男性15名が6棟に分かれて生活をしております。

昨年開催された餅つき交流会では、桂川町シルバー人材センターよりボランティアの方々をお招きしました。普段ふれあうことのない方たちと交流し餅つきを体験され一緒に美味しいお餅を作り、楽しまれました。また、休日は弥山岳登山や桂川町図書館、桂川町体育館を利用し地域交流の中から、いろいろな体験や充実感を感じてもらっています。

今後利用者様のニーズと行いたい活動要素を幅広く多く取り入れ、自立を目指し健康で安全に楽しい生活を過ごしていただきます。

サポートスタッフ 金澤 良太




ボランティア団体
すみれ句会
問合せ: 桂川町社会福祉協議会
TEL: 0948-65-2271

すみれ句会の紹介

昭和62年、故古賀久義（ひさよし）氏が福祉活動の中の生涯教育の一環として結成されたのが「桂川福祉すみれ句会」と聞いています。古賀氏は、ボランティアグループを設立、牽引されてこられました。俳句では「榻人（いっとうじん）」の俳号で活躍され「障害のある人もない人も、手を取り合っていきたい」と暮らせる地域づくりを」と訴えていらつしやいました。

故古賀一榻人師より始められた生涯教育の「桂川福祉すみれ句会」は師、没後本社協の要請もあり「風のたより」の作成を手掛け、細々ながら現在に至っています。

コロナ禍で句会中止を余儀なくされ



る時期もありましたが、郵送でのやりとりなどで「風のたより」発行に精進して来ました。読者の方々より「いつもみてるよ」など言われると嬉しくなります。

花田 ムツ子



お知らせ

2024年(令和6年)カレンダー募集

来年(2024年)のカレンダーを集めています。集めたものは、ひとりぐらし高齢者や高齢者世帯などへ民生児童委員にご協力いただき配布しています。

企業や商店などからもらったカレンダーのうち、ご家庭でお使いにならないものがありましたら社協へお持ちください。高齢者世帯への配布が中心になりますので、数字が大きく印刷されているものがあれば、なお大歓迎です。またカレンダーが必要な方も社協へご相談ください。



「献血」は命をつなぐボランティア

交通事故や病気による手術など血液を必要とする患者さんが、たくさんいます。しかし、血液は人工的に作ることが出来ない上、長期保存もできません。皆さんの協力によって、多くの命を救うことができます。命をつなぐボランティア「献血」にご協力をお願いします。

期 日 令和6年2月1日

時 間 10時～15時30分

(休憩12時30分～13時30分)

場 所 総合福祉センター「ひまわりの里」

年 齢 男性17～69歳、女性18～69歳

体 重 男女共50kg以上

※初めての方は、本人確認できる証明書(運転免許証・健康保険証・学生証など)をご持参ください。

※血圧の薬を複数服薬されている方も献血可能ですが、合併症がなく、血圧が安定している方に限りです。また医師の判断によりご遠慮していただく場合があります。

終活相談会

終活に関すること全般のご相談ができます。遺言、相続、遺産、遺品、葬儀、散骨、お墓、死後事務委任など幅広くご相談頂けます。

日 時 12月21日、令和6年2月22日

10時～12時(40分/人)

場 所 いきいきセンター桂寿苑

相談員 終活パートナー九州

眞武 純哉 氏

費 用 無料(要予約)



令和5年 社会福祉大会が行われました。

本大会では、市町村社会福祉協議会や社会福祉法人・施設、関係団体等が連携・協働し、誰もが安心して暮らせる元気な地域づくりに向け、コロナ禍の経験を踏まえ、研鑽するとともに、多年にわたって社会福祉の推進に貢献された方々が表彰されました。

桂川町からは、明日香園の黒田しげ子さんが福岡県社会福祉協議会会長表彰社会福祉事業特別功労者(職員)として表彰されました。おめでとうございます。



問合・申込先 桂川町社会福祉協議会(いきいきセンター「桂寿苑」内) ☎65-2271 FAX65-4555

ありがとうございます
ご協力しました

令和5年8月1日～令和5年10月31日

香典返し寄付金

●土居二 峯男様(故妻ミヤ子様)
●吉隈二 武光様(故母ハル子様)
●原 千代様
●九郎丸 明美様
●野寄 吉村ハナコ様
●土師二 佳子様(故夫 健一様)
●都築千 洋子様
●林 義母 フジ子様
●第二豆田 山崎美紀子様(故夫 祐治様)
●平山一 勝広様(故母 澤江様)
●平田 剛様(故母 フサ子様)
●長野 剛様(故母 フサ子様)

●平山二 保幸様(故妻喜代香様)
●井上 菅 ちづる様
●桂ケ丘 松尾 久子様
●初盆返し寄付金
●吉隈一 佐藤 和子様(故夫 忠行様)
●土師五 小田 貴子様(故夫 洋一様)
●一般寄付金
●桂川町のタイガーマスク
寄付金合計 279,000円

人権相談ダイヤル

～ひとりで悩まず相談してください～

- みんなの人権110番 ☎0570-003-110
差別、虐待、ハラスメント等、さまざまな人権問題についての相談
- 女性の人権ホットライン ☎0570-070-810
女性の人権についての専用相談電話
- 子ども人権110番 ☎0120-007-110
子どもの人権についての専用相談電話
- インターネット人権相談窓口 <http://www.jinken.go.jp/>
パソコン、携帯電話、スマートフォンから、いつでもご利用いただけます。

スマートフォンからは
こちらから



公正証書相談会

遺言、相続、尊厳死、金銭消費貸借、土地・建物などの賃貸借、協議離婚に伴う財産分与・養育費や慰謝料の支払い、会社設立、任意後見に伴う公正証書の作成について、ご相談いただけます。

日 時 令和6年1月10日、3月13日 13時30分～16時(30分/人)

場 所 いきいきセンター桂寿苑

相談員 飯塚公証役場 公証人 吉田 光宏 氏

費 用 無料(要予約)

このひとに聞きました



おおさと ひろふみ
大里 博文さん



プロフィール

◎年齢 72歳
◎住所 土居一区
◎趣味 スポーツ観戦

■聞き手
右田よう子
足立 秀子

旧嘉穂町で生まれ、3歳のときに高熱により耳が聞こえなくなりました。ろう学校を卒業後、大分県で結婚し、3人の息子さんに恵まれ、その後、桂川町に引越してこられました。手話の会の定例会や手話講習会、小学校への手話指導など元気に楽しんでおられます。

Q1 聴こえなくて大変だったこと

手話を勉強しはじめたときに先生が口話の授業だったので、とても勉強が大変でした。大人になつてからは地域での相談やグループで話しているときに、手話がないと話が分からないこと。地域でコミュニケーションができないときは困ることがあります。

Q2 生まれてきてこれまでに嬉しかったこと

息子3人は健聴者ですが、長男の奥さんが手話を覚えてくれたことや、そのお母さんにも手話を通じる

のが嬉しかったです。コミュニケーションがとれるのは嬉しいです。

Q3 手話指導はやりがいがありますか？

今、指導するのはとても楽しいです。手話指導をしていなかったときは、子どもたちに怖がられました。今は指導に行くことで私を覚えてくれています。手を振ってくれたりするととても嬉しいです。

Q4 町や社協に求めることはありますか？

以前は、手話を覚えてくれていない職員がいましたが、今は手話を通じないことが増えました。手話は聞こえない人の言語なので、役場や公的な所などでは、手話を覚えて、コミュニケーションがとれるようになって欲しいです。障がいがある人たちにとても優しい町づくりをお願いしたい。

元気で頑張ること

編集後記

日本人の平均寿命の男性約81歳、女性約87歳に対し、健康寿命は男性約72歳、女性約75歳だそうです。

自分でご飯が食べられて、着替えて、歩いてトイレに行ける。あたりまえの事のように、とても大切で、ありがたい事だとつくづく思います。

この社協だよりの「この人に聞きました」コーナーでご紹介させていただいている方々は、すこいいきと活動されています。プロフィールをよく見ると「高齢者」、「後期高齢者」と呼ばれるご年齢であることに驚きです！

ボランティア精神を持ち、だれかのために行動する。これこそが若さを保つ秘訣ではないでしょうか。

少しでも「健康寿命」を延ばすため、まずは自分にできることを楽しみながら取り組んでいこうと思います。

広報部員
藤川 珠磨子



絵:「愛しの五郎」今田貴美子さん

夏休み子ども受入事業(給食サービス)

令和5年度も夏休み子ども受入事業を行いました。いつもはできない体験や人とのふれあいを通して、子どもも大人も元気になると思います。

今年度は、新型コロナウイルス感染症のため中止が続いていた「給食サービス配達体験」も実施できました。これは、民生児童委員(女性部)さんが作ったお弁当を社協職員と一緒に利用者のお宅へ届けるという活動です。

当日は、9名のお宅に、お弁当を配達してきました。私達、社協職員だけでお届けするときも「いつもありがとう、美味しいよ」と嬉しい言葉をいただいています。今回は小学生も一緒ということもあり、「ありがとう、かわいい、いつも美味しいよ、がんばってね」といろいろな感情が溢れていました。

当事業に参加してくれた子どもには、「ちょっとしたことでも、喜んでくれる人がいる」と感じてもらえれば嬉しいです。

